

児童デイサービスは、主に就学前の子どもたちを対象に療育を実施しています。遊びやゲームを通してルールや言葉覚え、友だちとのかわり方を学んでいきます。子ども一人ひとりの好きなことや得意なこと

療育を通して

早期発見・早期療育
「気づき」から始める
幼児期に発達のおまじゆや課題を見極め、その子に応じた必要な練習をしていくことは、その後の発育に良い影響があります。決してラベルを貼るのではなく、本人の困難さをできるだけ早くから軽減し、持つて生まれた能力を伸ばしていくためには大切なことです。



▲運動サーキットの後、協力して片付けをする練習

を見つ、遊びの中で自信をつけていくことが大きなねらいの一つです。保護者は、子どもたちが活動している様子を見ながらかわり方や対応の仕方を学んでいきます。子どもが良い行動をしたらすぐにほめる、「投げたらダメ」ではなく「優しく置こうね」と実際に行動を見せながら、目で見て分かる手掛かりを多めに必要のないものは隠しておくといったシンプルな部屋作りなど。ちょっとした対応の工夫や環境調整によって子どもたちは驚くほど変化し、本来持っている力を発揮できるようになります。

同級生にお金をとられたAくん

Aくんは穏やかな性格の少年。同級生から「困ってるんだ。お金をくれないか」と言われて、おかしいと思わずに財布を渡しました。お金をとった同級生は「恥ずかしいから誰にも言わないで」と告げましたが、Aくんは口止めに潜む悪意に気づきません。Aくんは利用しやすい子だとみなされ、ついには万引きの見張り役を頼まれ、友だちのためならと引き受けてしまいました。相手の言うことを言葉通りに信じてしまうため、だまされやすいのです。友情と悪意の違いが理解できず、犯罪行為への誘いを好意だと勘違いしてしまうのです。



子どもたちが練習しています。療育開始当初は、課題が目立っていた子どもたちも、1年の間に確実に成長し、少しずつ発達のステップを上がっていきます。保護者も我が子の成長を実感し、いつの間にか子育てに前向きになっていく姿が見られるようになります。課題が改善し療育を終了する子どももいますし、小学校就学まで練習に通ってくる場合もあります。できることから一つずつ取り組んでいくことで、次第に子どもの特性をつかむことができ、かわり方も分かってくる

また、保護者が子どものもつ特性や受けてきた支援内容を記録していく「はぐくみ」という相談支援ファイルがあります。必要に応じて関係機関に提示することで共通理解が深まり、成長過程に応じて一貫した支援が受けられます。

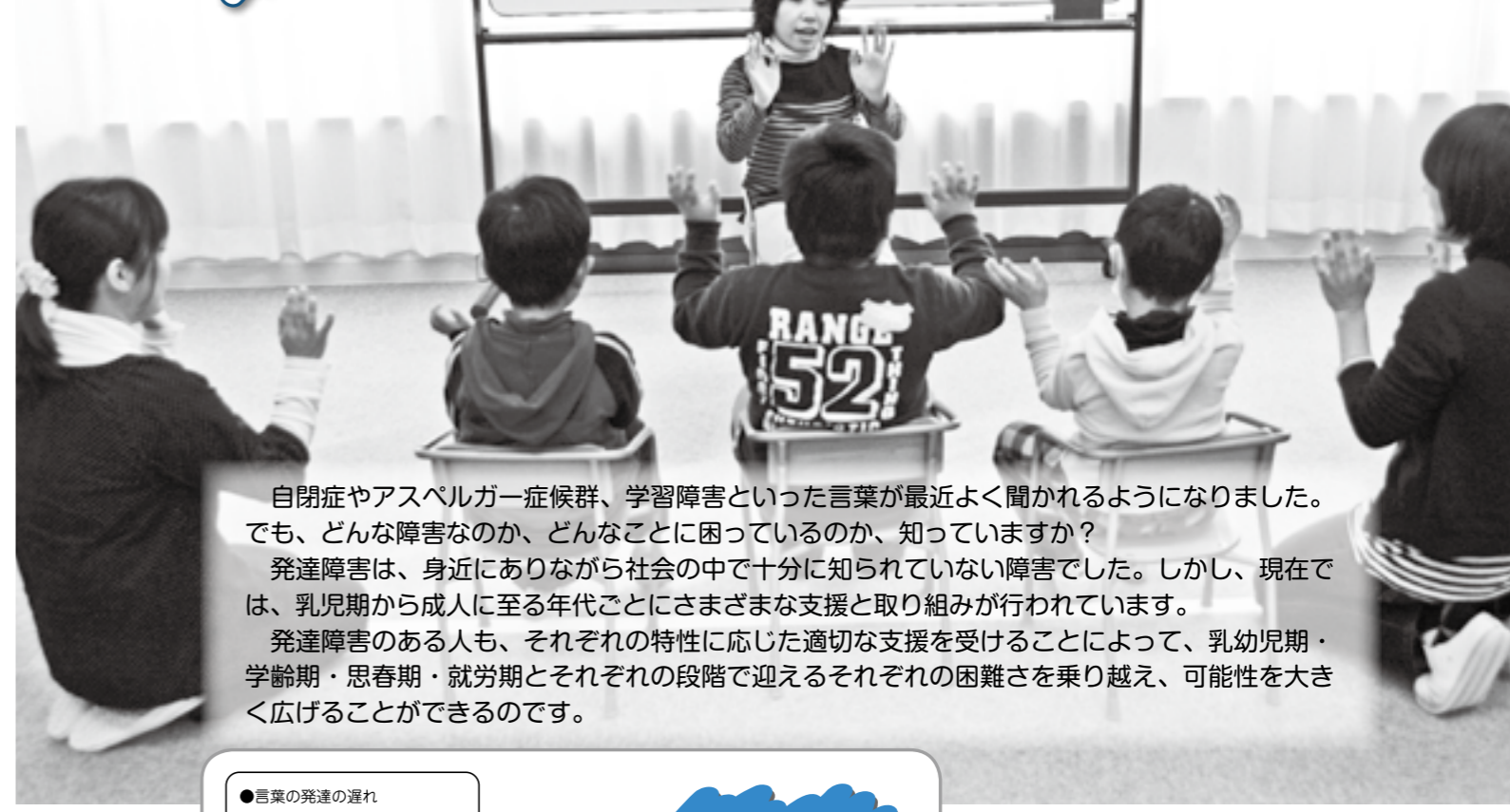
- ☆児童デイサービス (療育センター) ☎ 32-2174
- ☆キッズみのり児童デイサービス 事業所あゆみ (就学前の児童が中心(小田中)) ☎ 35-2122
- ☆キッズみのり児童デイサービス 事業所みらい (就学後の児童が中心(二宮)) ☎ 28-0536

児童デイサービス
「鬼ごっこを通して、一緒に遊ぶ楽しさを学ぶ」

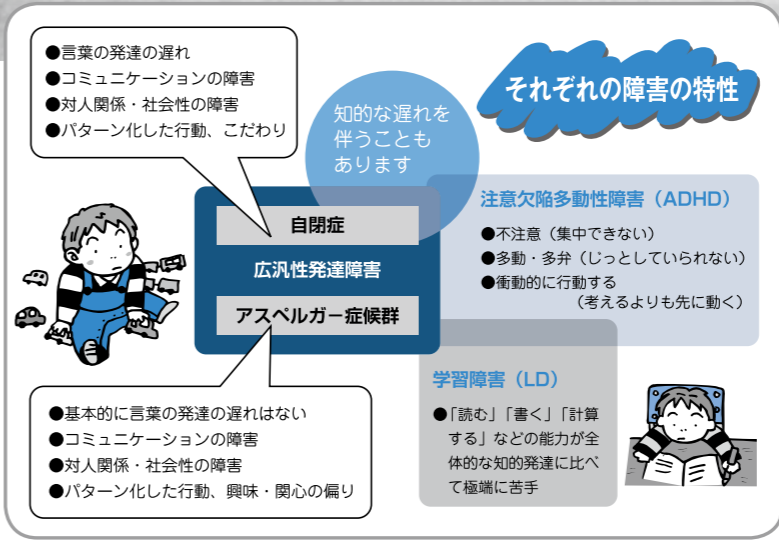


▲鬼ごっこを通して、一緒に遊ぶ楽しさを学ぶ

特集 発達障害のこと、知っていますか？

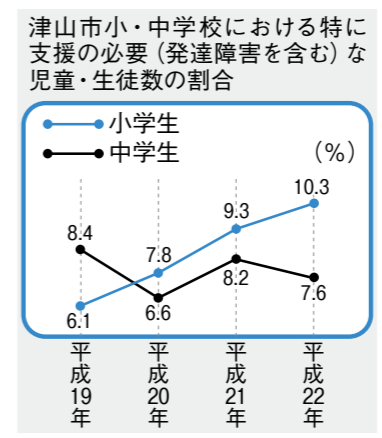


自閉症やアスペルガー症候群、学習障害といった言葉が最近よく聞かれるようになりました。でも、どんな障害なのか、どんなことに困っているのか、知っていますか？
発達障害は、身近にありながら社会の中で十分に知られていない障害でした。しかし、現在では、乳児期から成人に至る年代ごとにさまざまな支援と取り組みが行われています。
発達障害のある人も、それぞれの特性に応じた適切な支援を受けることによって、乳幼児期・学齢期・思春期・就労期とそれぞれの段階で迎えるそれぞれの困難さを乗り越え、可能性を大きく広げることができるのです。



発達障害といっても状態像はさまざま、同じ診断名であっても、その人の性格や発達状況、年齢、置かれた環境などによって症状やその程度は異なります。能力のバランスが偏っているだけなので、優れた能力が発揮されている場合もあります。発達障害の偏りによる苦手な分野もあり

発達障害の何が問題なのか、知っていますか？



原因は特定されていませんが、脳の器質的・機能的障害によってもたらされていることが、研究により分かってきました。つまり、生まれつき何らかの原因で、脳の働きがうまく機能しないということです。決して親の育て方や周囲のかわり方が原因で生じるものではないのです。

また、周囲の人に理解されにくい障害といえます。増えている原因は、まねな存在ではない、平成22年の市教育委員会の調査において、市内小学生の10.3%、中学生の7.6%が特に支援が必要(発達障害を含む)であるという結果が出ています。また、小学生においてその割合が年々増加していることから、発達障害のある子どもたちはまねな存在ではなく増えてきていることが分かります。

増えている原因は、まねな存在ではない